

公表

事業所における自己評価総括表

【児童発達支援】

| | | | |
|----------------|--------------|-----|---------------|
| ○事業所名 | つくしんぼ教室 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 12月 1日 | | 2025年 12月 25日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 126 | (回答者数) 59 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 12月 1日 | | 2025年 12月 25日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 45 | (回答者数) 39 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 3月 31日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | グループ療育、個別療育で子どもと関わる職員は多職種勤務しており、多方面から子どもの姿を見ることができます。小集団、個別それぞれの場での子どもの姿からひとり一人の課題を見出し、支援方法について多職種の職員で検討したことを療育の中で活かし、保護者は所属園への助言につなげ連携を図っています。 | 個別療育利用後は専門職による報告会をパート別(OT・ST・心理相談)に行っています。心理相談はその日のうちに、OT・STは月に1回行い、子どもの姿の他に園、保護者から聞いた家庭での姿の話を中心にグループ療育の場での姿とすり合わせ、子どもの今の課題や支援方法を職員間で共有し、同じ方向性で目指した支援が子どもの属する場で行えるよう努めています。 | 職員の勤務形態が多様なため、全員で報告会に参加することは難しいので報告内容を記録に残しています。業務の多様化により書面に目を通す時間の捻出が難しい所ですが、報告会の日程を把握したり、職員会議の議題としてあげたりする等職員自らが情報共有に努められる機会を設けていきます。時間の捻出にはICT化を図り、請求事務や保育記録管理等について正確かつ迅速な処理を行って保育の更なる充実を図りたいと思います。 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 通常の保育を基本とした中で通園児が主役として保護者参加の行事やイベントを取り入れていますが、兄弟児の参加については、取り組みを開始したばかりで保護者のニーズに合った参加の方法を模索しています。 | 会場の大きさに限りがあることや通常の保育に近い環境の中で利用児がいつもと同じ姿で安心して行事に参加して欲しいという職員の思いもあります。参加人数の制限を行い、対象児より年齢の小さい兄弟児の参加受け入れについては通常の保育参加時にも保護者と相談をしていますが、学齢期の兄弟児の参加があることで参加者数が増え、待ち時間が長くなることや兄弟児対応の職員配置が必要であり、現在行っている保育の質を保つことが難しい状況にあります。 | 利用児が安定して行事参加できる環境を確保した上で、兄弟児が参加できるよう参加対象枠を設けて参加時間を区切る等の工夫を行っていましたが、参加時間枠の取り方は保護者のニーズと合わないものもあり、更なる工夫が必要と思います。 年齢の高い兄弟児には行事参加の他、学校の長期休みを利用して行われる事業所のボランティア活動等への参加も呼びかけたいと思います。 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |